

第7回熊本市歴史まちづくり協議会 議事録

【日 時】 令和4年(2022年)3月22日(火) 14時~16時

【場 所】 熊本市国際交流会館 4階 第3会議室

【出席者】 全10名出席 ※以下、敬称略

委員 猪飼 隆明(会長)、伊東 龍一、大森 洋子、田中 尚人(オンライン)、
鄭 一止、小林 寛子、宮崎 公一、上村 元三、宮本 茂史、吉村 圭四郎

【議題】

- 1 くまもと歴史まちづくり計画の進捗評価について(概要説明)
- 2 令和3年度の主な取組状況について(報告、意見聴取)
- 3 令和4年度の主な取組方針について(概要説明)

【概要】

1. くまもと歴史まちづくり計画の進捗評価について

2. 令和3年度の主な取組状況について

事務局で説明後、質疑応答及び審議を行った。委員から出された意見は以下の通り。

(1) 進捗評価全般について

- ・進捗評価のエビデンスに類するアンケート等の結果があれば、その内容についても進捗評価シートに記載してもいいのではないか。
- ・城下町地区や川尻地区で行ったイベントに対して、行政の支援への反応や継続するに当たっての課題についても、あれば記載いただきたい。
- ・進捗評価シートについて、コロナ禍にも関わらずほとんどが計画通りに進行しているとなっていたが、「実施・検討にあたっての課題と対応方針」が空欄となっているものがある。今年度の反省や課題を書いたほうが、次年度へ行かせる反省材料となるので、できるだけ埋めて頂きたい。
- ・ハード面で計画されたことは概ね進んでいるかと思うが、イベントはコロナ禍でここ2年間厳しかったのではないかと思うので、そういった表現が進捗評価シートにあってもいいのではないかと思う。

(2) 町屋利活用プラットフォームについて

- ・町屋所有者の方に対し、近所の方がお話されると安心されるため、補助の種類など分かりやすい説明が必要となる。プラットフォームを通じて所有者や事業者などの関係者に意識を染み込ませていくことがここ1~2年の課題ではないか。
- ・地域外、特に県外から資本が入ってきた場合、地元から声を上げることも大事だが、市も地元の声をまとめたり、業者等へ周知したり、県外業者からのマッチングのニーズに対しても関わっていただきたい。

(3) 歴史的建造物等調査（DB化）及び保存活用支援事業について

- ・町屋調査に関わらせていただいた時に、地震後町屋の件数が減ったことを身に染みて感じた。また町屋所有者の意識を変えるのが難しい。来年度以降地域団体と市とが連携し、所有者の心を解かしながらじっくりと機運を高めていくことが、今年度の課題と来年度の動きかなと感じている。いま取り組んでいるモデル事業が先導的な働きとなるのではないかと思う。
- ・DB化されているという話だったが、町屋所有者や物件の情報等記録していくことは必要だと思う。

(4) 歴史的建造物の修景補助について

- ・建造物の保存・活用の部分について、活用の部分は非常に力を入れて頂いているが、保存の部分も複数の目で見えて判断していければありがたい。建造物の改修のベースに歴史的価値の保存の仕組みを作っていく必要があるので、町並みガイドラインにより細やかな基準を含めるか等の見直しを含めて検討いただければと思う。
- ・ヘリテージマネージャーと協力して改修の初めの方で方針を決めるのもいいと思う。オリジナルを残すことが原則となり、あとは使い勝手も含めてどこまですり合わせが出来るかだが、ヘリテージマネージャーも経験があるので協働いただくものいいのではないか。

(5) 郷土文化財制度について

- ・郷土文化財制度の普及・周知とあわせて、団体の運営や団体を育てる支援も必要である。
- ・郷土文化財制度というのは、地域の方が郷土文化財として後世に伝えていく、まちづくりに活用するということは書いてあるが、どう活用するかといった具体的なものがないので、郷土文化財として認定されることで、地域にとってのメリットがどこにあるのかが分からない。
- ・観光という仕組みをうまく活用して、保存だけでなく活用することで地域にお金が回る仕組みをトータルで考えて作っていかないといけない。単に文化財の指定だと指定されるだけで終わってしまうので、そういった仕組みを作ることで、指定を受けてみたいという団体が増えるのではないか。
- ・郷土文化財制度について若干条件が厳しいと思う。文化遺産として50年以上、活動が20年以上の条件でハードルが高い。団体の活動状況等を加味して、活動年数については条件を緩やかにしてほしい。

(6) 米蔵について

- ・文化財ということで火も使えない、冷暖房もない。2棟あるが、1棟は展示スペースになり、もう1棟はイベント等への活用ということだが、火も使えない、冷暖房もない、電源も遠いということで何に使おうかといったところ。年貢のシステムが展示されているところがあまりないので、市内の小・中学校から来てもらえるような施設になればと思う。

(7) 情報発信について

- ・情報発信については、より SNS に舵取りをしていく必要がある。
- ・出前授業や地元で意見交換を行うことがコロナ禍でできないため、リモートで実施している。文化財の価値や本質をいかに伝えていくか非常に難しいが、SNS にも目を向けていかななくてはならない。

(8) その他

- ・実証実験を通して地元の意識が変わった。また、若い人が物件を借りるようになり、古町の雰囲気が変わってきている。道路美装化の話し合いでも、地元の人に関心を持ち始めたことを実感している。
- ・協議会の中で事業報告があって意見が求められるが、事業実施の際に視察などの現場に足を運ぶ機会があればありがたい。

2. 令和4年度の主な取組みについて

事務局で説明後、質疑応答及び審議を行った。委員から出された意見は以下の通り。

- ・川尻地区のプロモーション動画について、コロナ禍で外国からの来日は難しい状況であるが、まずは動画で知っていただいて、コロナが収まった後には訪れて頂きたい。予算の状況もあるが、出来るだけ多言語対応でお願いしたい。
- ・各事業は点に過ぎないので、面的に1枚マッピングしていただくと、視覚的に事業の動きが明確化するのではないか。
- ・伝統文化の活動関係で、郷土文化財等ソフトの事業を推進する中で、各団体間での交流会を開催していただき、各団体での活動や思いをお互いに話すことで、より深い推進力になるのではないかと思う。

3. その他

委員から頂いたご意見については、進捗評価シートに記載の上、国に報告することとなっている。進捗評価シートについては、会長が最終確認を行い、事務局から各委員に最終版をお送りする旨会長より説明があり、委員了承。